

「学校経営研究会々員名簿」はプライバシー保護の観点からオンラインでは公開していません。

大塚学校経営研究会会則

第1条（名称）

本会は、「大塚学校経営研究会」と称する。

第2条（目的及び活動）

本会は、学校経営を中心に教育学全般に関する研究を目的とし、各種研究会の開催、紀要及び各種出版物の刊行を行い、全員相互の交流を図るものとする。

第3条（会員）

本会は、会員及び名誉会員から成る。

2. 会員は、本会の目的に賛同し、活動に参加を希望する者で、会員2名の推薦をもって、入会を認められる。
3. 名誉会員は、本会が推挙する。

第4条（組織）

本会に、会長・幹事・会計・紀要編集委員等を置く。その任期は1年とし、総会で選出する。

2. 総会は、原則として春季合宿において行うものとする。

第5条（研究会）

本会の研究会は、次の通りとする。

- ①月例研究会：毎月1回定期的に研究会を開催する。
- ②合宿研究会：年間各期の活動を総括し、かつ新たな研究計画を策定し、会員相互の親睦を図る。春季・夏季の2回を原則とする。

第6条（会計）

本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月末に終わるものとする。また、会費は3,000円とする（名誉会員を除く）。

第7条（紀要）

本会の紀要は、「学校経営研究」と称し、年1回毎年4月に刊行する。その編集規程は、別に定めるものとする。

第8条（雑則）

本会の事務局は、筑波大学に置く。

2. 本会会則の改正は、総会において出席者の過半数の賛成により行う。

第9条（附則）

本会則は、昭和51年3月1日より施行する。

2. 本会則は、昭和54年4月1日より施行する。
3. 本会則は、昭和56年4月1日より施行する。

「学校経営研究」編集規程

1. 本紀要は、大塚学校経営研究会の機関誌として年1回発行する。
2. 本紀要は、本会会員の研究論文を掲載し、併せて、文献・資料の紹介、その他研究活動に関連する記事を登載する。
3. 本紀要に論文を掲載しようとする会員は所定の論文投稿要領に従い、紀要編集委員会事務局宛に送付するものとする。
4. 論文の掲載は、紀要編集委員会の合議によって決定する。
5. 掲載の場合、若干の修正を加えることがある。ただし、内容について重要な変更を加える場合は執筆者と協議する。
6. 本紀要に掲載したものの原稿は、原則として返還しない。
7. 本紀要の編集事務についての通信は、(〒305)茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学教育学系、学校経営研究室気付「大塚学校経営研究会紀要編集委員会」宛とする。

「学校経営研究」論文投稿要領

1. 論文原稿は、未発表のものに限る。(ただし、口頭発表プリントの場合、この限りでない。)
2. 編集委員会において枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として、400字横書原稿用紙50枚以内とする。
3. 原稿に図表のある場合は、本文に換算して指定する。
4. 論文原稿には必ず論文題目の欧文を付すること。
5. 論文投稿の申し込み期限は毎年8月末日とし、原稿提出期限は毎年10月末日とする。

編集後記

教育改革のテーマとして学校経営が今日ほど重視されたことは、ここ20年のスパンで見ると、なかったことではないかと思う。それほどに、臨時教育審議会答申は学校経営の全面にわたって改善・改革を強調しているのである。

答申は、大体において“おもしろくない”ものだが、今度の答申は“読ませる”、“おもしろい”ものになっている。

『学校経営研究』第13巻で、「教育改革と学校経営改善への期待」と題した特集を組んだのはそのためである。改善策のほとんどを網羅したつもりであるが、もし、落ちているものがあればご教示いただければ幸いである。

当初考えていた「父母の学校参加」という柱は、執筆予定者が期日までに原稿完成がならず、抜けおちてしまったことが残念である。

「自由研究」では小松・浜田両会員から投稿があった。このうち小松会員の論文は昨年1年間のイギリス留学で見聞したことや研究してきたことに基づいているもので示唆に含むものが多い。

「学校現場の問題」では阿部会員から貴重な経験・実践をお寄せいただいた。「文献・資料解題」は3人の会員から原稿をお寄せいただいた。天笠会員の「臨時教育審議会と新聞報道(その3)」はそれ自身、資料に活用できるものである。浜田会員がとりあげた文献はアメリカ教育改革の焦点である「教職構造」にメスを入れた改革提言である。また、柳澤会員のものは修士論文で活用した調査データのうち、分析を残していたものについて紹介、解説したものである。いずれも日本の学校経営の改善を考えるにあたって示唆深いものだと思う。

編集には苦労したというのが率直な感想であるが、なんとかここに完成することができた。第14巻編集はこの経験を活かし、さらに充実した内容のものをお届けしたいと考えている。読者諸氏のご批判、ご意見をお願いしたい。